

『北はるか畜産通信』

JA北はるか美深本所・下川支所・中川支所

北はるか畜産通信第3号です！

皆様、いつも大変お世話になっております。お待ちかねの畜産通信第3号です。今回は子牛の栄養という事で代用乳を重点的にお知らせ致しましたが、今回は②人工乳③水についてお知らせ致します。

栄養を充足させる！パート2

外気温が上がり牛達には過ごし易い環境になっています。それと同時に飼料の摂取量も上がり、ぐんぐんと牛達は大きく成長する時期です。毛並みの良いイキキとした牛に育てましょう！

《子牛の栄養で必要な事》

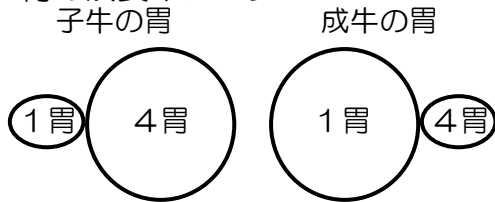
最も子牛に必要な事は手間と愛情なのですが、栄養から考えると ①代用乳 ②人工乳 ③水です。
↑前回も書きましたが、覚えてますか？

《子牛管理のポイント》

①人工乳について（スターター）

前回の代用乳は子牛時の重要な栄養源ですが、牛になる為にはメインタンク（第1胃）を発達させる必要があります。産まれたばかりの牛の第1胃内壁はつるんつるんになっていますが、そこに絨毛と呼ばれるヒダヒダを成長させる程、たくさんの栄養を吸収できる様になります。（成牛では第1胃の容積が約200ℓにもなると言われています。）絨毛を発達させる為には、スターターが必要で各飼料メーカーが沢山の試験をした上で、色々な商品を出しております。食い付きと食い上がり良く、軟便になりにくい物を使いましょう。後、この時期に牧草を給与するかどうかで賛否両論ありますが、もし硬い草を与えると、繊細な第1胃内にキズが付き、絨毛の発達が阻害されます。草の多給も腹が落ちた牛になり、結果的に成長が遅れる様に思えます。私は握っても痛くない2番草を1日50g位給与する事をお勧めします。

胃の成長イメージ



☆スターター給与の有無による疾病発生と治療・死亡状況

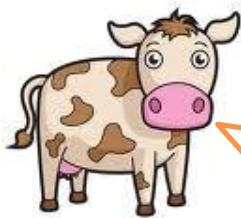
スターター有無	頭数	呼吸器病	治療状況	死亡率
		発生率	平均回数	
有	102	17.6	1.8	1.0
無	64	53.1	3.7	7.8

②水について

一見ミルクから水分を取るから水は必要ないと思われるかもしれませんが、ミルクは第4胃へ、水は第1胃へ入って行きます。水で牛は大きくなりから適当で良いでは困ります。水はスターターの分解発酵を手助けしてくれますので、水が無ければスターターの摂取量が減り、当然発育も遅れます。常に清潔な水が飲める様に管理を見直して下さい。ただし、不断給水していない方は哺育直後に水を与えるのはやめて下さい。ミルクは第4胃へ入ると書きましたが、第1胃をバイパスする為に第2胃壁が筒状になる事で第4胃に流れ込む仕組みになっているんです。（食道溝反射）つまり哺育直後に水を与えると水が第4胃に流入してせっかく計って給与したミルクも、凝固不足となり下痢の原因になりますので、哺育後20分位経過してから水を与えて下さい。じゃあ1日に何ℓ位の水が必要なんだ？という質問がありそうですが、答えは飲みただけです。でもこれでは不親切なので飲水は固形飼料摂取量の約4倍重量が必要と言われています。

☆水の給与と子牛の日増体重

水給与	頭数	日増体重 (g)
自由	34	523
制限	56	406
無	18	211



皆さん、今回の内容はいかがでしたか？ワンポイントアドバイスとしてスターター等を給与する為の容器は慣れるまでの間は、深目のバケツより浅目のボウル型の方が子牛は顔を入れ易いです。深目のバケツに顔を入れている時には周りの状況が把握できません。（眼隠されていると思って下さい。）浅目の容器でビクビクさせず、のんびりとした環境でご飯を食べさせてあげて下さい。今回も読んでいただきありがとうございます。では次もお楽しみに～！